

溝迫交差点増す危険度 駅北/団地内迂回車両も増大



い前は守続るしにへ急通する。通りいいて危険な状況を負ふ。況求がぬ開通して停止を求める車両が、身を挺てて見がめを負ふ。これまでのところは、通勤時間帯では、特に朝の小学校児童の通学時間帯では、八本松西の溝迫交差点で左折侵入車や、2号線バイパスを降り、右折して西側向かいが増加している。

こうした状況の中、八本松住民自治協議会（以下、自治協会長 士久岡章治）今年度4月より活動を開始した防犯交通部会（部会長 山崎勝）が東広島警察署に歩行者信号を歩行者横断中は車両が全停止する「歩車分離式信号」に変更する要望書を提出。これに東広島警察署は、信号の間隔を調整しており協働で安全確保に向け、活動している。

今年も「きれいなまちづくりキャンペーン」が開催される。昨年同様、ゴミを拾いながら小学校までウォーキング。6月11日（日）8時30分～9時30分までに「ゴミをさげる」という。※雨天等による中止は市廢棄物対策課HPに掲載される。

大きく変化した車両通行状況 ♪バイパス開通後♪

今年3月に開通した国道2号線安芸・東広島バイパスの八本松西側瀬野間開通に伴い、交通状況の変化が顕著となっている。



溝迫交差点横断歩道
車両の前へ出て、児童を横断させる状態が続く

さらに、渋滞を避けるために裏道を利用する車両も増えており、八本松駅北側道路に加えて、大山ハイツや松風ハイツ団地内を経由し、私有地を通過して旧号線（現国道486号線）を広島方面に向かう車両も頻繁に見られるようになつており、注意が必要である。

団地内通り抜け 車両の増加も

